

図7 旋尾線虫幼虫による皮膚爬行症の組織所見(HE染色) 表皮直下(a)ないし真皮内(b)に体幅約100 $\mu$ mの幼虫断面が認められる。双葉状側索，coelomyarian型の筋層および横紋形成を示す角皮が観察される(九段坂病院皮膚科，大滝倫子博士のご厚意による)。

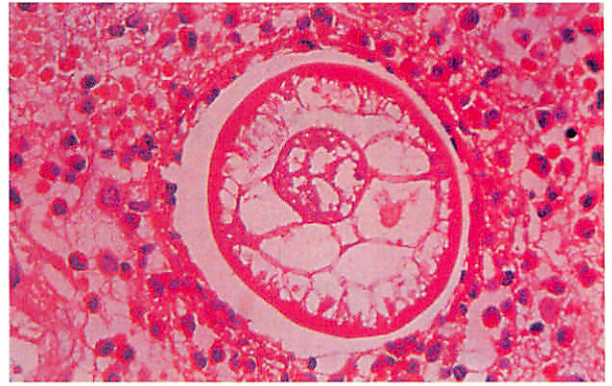


図8 旋尾線虫幼虫による急性腹症(イレウス)症例の小腸組織像(HE染色) 好酸球性蜂窩織炎を伴う小腸壁の一部に，図7と同様の形態的特徴を示す旋尾線虫幼虫の断面が認められる(国立感染症研究所，影井 昇博士のご厚意による)。

塩分濃度を高めた保存法が導入されるようになって以来，1992年をピークに減少してきている。

#### 参考文献

- 1) 吉村裕之：幼虫移行症。病理と臨床 1983, 1: 1389-1406
- 2) 名和行文：幼虫移行症。治療 1991, 73: 2407-2412
- 3) 谷 荘吉：顎口虫症。病理と臨床 1983, 1: 1441-

1447

- 4) 赤羽啓榮：顎口虫症。臨床と微生物 1996, 23: 179-184
- 5) 大滝倫子，副島清美，滝野長平ほか：旋尾線虫幼虫による Creeping disease の2例と報告症例の集計。日本臨床皮膚科医学会雑誌 1995, 44: 88-94
- 6) 影井 昇：病理組織標本内にみられる寄生虫の鑑別法。検査と技術 1997, 25: 905-920

#### ■糸状虫症が成立する確率

パンクロフト糸状虫は，ハマダラカ，イエカ，ヤブカに属する多種類の蚊が媒介する。蚊によって糸状虫症が媒介される確率はどれくらいだろう。Hairston & DeMeillon による本疾患の流行地ビルマにおけるネッタイイエカを対象とした調査結果を紹介する。

①蚊が感染幼虫を有する確率の問題，②蚊の一個体が保有する感染幼虫数の少なさ，③蚊が吸血によ

り人に糸状虫幼虫を感染させる機会は一度だけ，④吸血の際に感染幼虫が蚊の吻部から脱出し皮膚に侵入できる確率は5%程度と低い，⑤侵入後にうまく成熟して雌雄の成虫となり次世代を生み出せる確率もそれほど高くない。結局，ひとりの住民が末梢血にマイクロフィラリア陽性になるには，計算上，感染幼虫を保有する蚊に年間15,500回も吸血されねばならない。